



幼児が唱歌の意味を理解したるまゝに直に動作に表出する事は自然の性に出づるものにて幼児の極めて愉快とするところなり今左に幼児が真演したるもの、二を擧ぐ

一、雲雀は歌ひ

雲雀は歌ひ蝶々は踊る春の野山に遊ぶは嬉しこゝにはよめ菜そこにはつくしたんぼゝすみれれんげ花をばとりて草をば摘みて内のかあさんへおみやにしませう

(歌詞)

雲雀は歌ひ蝶々は踊る春の野山に遊ぶはうれし

こゝにはよめ菜

そこにはつくし

たんぼゝすみれれんげ花

花をば採りて

この所動作なし

(動作)

右手の人さし指を以てそこに

よめ菜あるが如く近き所をさす

少しく遠方を指す

三つの花が其ほとりにあるが如くに右手の人さし指を以て

三度さす此時は右より左へ順次三度さすあり又左より右にする

るあり又手前脇向とさすありて一定せず

体を屈して地上の花を折り採

るようになす右手にてとり左

手に受くること四度

花の動作を速かになす

直立し兩手の掌を上に向けて

揃へ少しづつばめて物を載せる

形をなす

掌をひろげて手を少し前に押

し進む

二、人形

1 粗末にすなと母上の仰せ給ひし此人形着物を

着せて帯しめて箱の御殿にすわらせん

2 着物は縁帯は赤模様は松にこぼれ梅なくなよ

泣くなお休みの日には花見に連れゆかん

3 わばれる鼠じやれる猫人形の家を破るなよ學

校すみて歸るまでまてよ我身をおとなしく

(歌詞)

粗末にすなと母上

の仰せ給ひし

此人形

着物をさせて

帯しめて

箱の御殿

すわらせん

(動作)

この所動作なし

人さし指を以てそこに人形の

ある如くに指す

兩手を肩の邊より袴にそへて

帯のところまでなかろす

兩手を帯の上につけ帯にそ

て前より後にまはす

兩手を前に延ばして指先さを

つさわはせ箱の形をなす又兩

手の指先を上に向けて合せ屋

根の形をなすつもり

兩手の掌を下にむけ水平にそ

ろへて少し下にさぐ又掌の上

着物きものはみどり

帯おびは赤あか

模様もようは松まつにこぼれ

梅うめ

泣なくなよくな

に向むかくるもわり

右みぎ手て人ひとさし指ゆびを着物きものの胸むねのあ

たりにつく

右みぎ手て人ひとさし指ゆびを以て帯おびをさす

左ひだり手てを以て左の袖口そでぐちを軽く抑

へて袖そでを張り右手みぎての人ひとさし指ゆび

にて左袖ひだりそでの模様もようのある如ごとくに

さす而しかして松まつといふときは一

度梅どうめのときは點々てんくとわちこち

二三度にさんどさす

人形にんぎやうを左方さほうに抱いだきたる様さまをな

し左手ひだりてにかゝへ右手みぎてを左手ひだりの

内方うちほうに添そへて動うごかし小供こどもの泣な

きを止とむる有様ありさまをなす(これ

は最も喜もつとびてなす)

お休やすみの日ひには花はな

見みにつれゆかん

わばれるねすみ

じやれる猫ねこ

人形にんぎやうの家いへ

破やぶるなよ

學校がっこうすみて歸かへるま
でまでよ我身わがみをか

この所ところの初はつは前まえの動作どうさをつい

けをるもわり又またこゝより動作どうさ

せざるもわり花見はなみのところ

至いたりては全またく動作どうさせず

指間しかんを開ひらき出で來き得えるだけ早はやく

兩手りやうてを交か互あひに上あ下くだして鼠ねづみのあ

ばれる意いを表あらはす

前まえの動作どうさを極きまめて緩ゆるがになす

(右みぎ一いつは男兒だんじ最もつとも喜もつとびてなす)

兩手りやうてのささを上うへに向むけてつき

合せ屋根あはせやねの形かたちをなす

右手みぎてを左方さほうに向むけて三度さんど振ふり

動うごかす(破やぶる真似まねをなす)

この所動作ところどうさなし

となしく

幼兒の理想

保母或時幼兒に向て大きくなりて後何になりた
きかを問ふ一男兒答へて「お金が儲かるから車
夫になりたい」と言ふ即ち各兒に付き何になり
たきか、儲けし金を如何にするかを問ひて得た
る答左の如し

(何になるか)

(金を如何にするか)

荷車を引いて海苔やなんかを
賣りに行くのそれを賣てしま 洋服とサーベルと
つて店で小僧をしてお金がで を買ふ
きたら銀行にいらしてそしてし
まひにお金持になる
帽子屋になつて帽子をお店へ 阿母さんに上げる

持つて行く

お煮餅屋になつてしたぢをつ
けて焼いて人が買ひに來たら

あかんばに靴を買
て遣る

賣る

車夫さんになりたいお金が儲
かるから其お金で着物を買ふ
着物をよむすと阿母さんに叱

られるから

八百屋

銀行に預ける

牛肉屋

銀行に預けて置い
てラツパを買ふ

以上男兒

簪屋

着物を買ふ

玩具屋

玩具を買ふ

烟草屋

着物と風船を買ふ